

まちづくり懇談会内容

日 時： 令和 6 年 11 月 6 日(水)14:00～15:20

場 所： 御園公民館

出席者： 11 人

1. 開 会
2. 町長挨拶
3. 懇 談

(1) 主要施策の取組状況について 資料①参照

(2) 自由懇談

4. その他

- ・資料②参照 ネイチャーポジティブの実現に向けて
- ・資料③参照 紙の保険証の発行について
- ・資料④参照 緊急告知 FM ラジオについて

5. 閉 会

【自由懇談・そのほかの質疑など】

■ネイチャーポジティブ宣言と栗山高校女子野球部について

町 民 ネイチャーポジティブ宣言と栗山高校女子野球部は何を目指すのか

町 長 昭和 60 年に国蝶オオムラサキが発見されて以来、官民連携により自然環境を守る取り組みを進めてきた。今や栗山ブランドの重要な一つとなっている。栗山の豊かな自然環境を未来永劫守っていききたいというのが願い。その理念の一部がネイチャーポジティブと合致する。4 団体から提起されたことが契機となった。この宣言を契機とし環境条例を策定し豊かな自然環境を守っていくことが一つの想いであり宣言をした理由。これまでいろいろな取り組みをしてきたが今がゴールではない。自然再興だけでなく町が環境を大切にする政策につなげていきたい。

栗山高校女子野球については、部員も 31 名となり来年 10 人入れば大所帯となる。生徒数が減り先行きが見通せない状況が続き高校の存続が危惧されているなか、栗山高校魅力づくり委員会を立ち上げ、色々な議論を行ったうえで、生徒確保の一環と魅力向上のため競技人口の伸びている女子野球に取り組むことにした経過がある。しかし、野球部員だけで二間口維持は困難であり栗山高校を選んでもらえるように魅力を高めることが安定的な生徒確保になる。栗山中学校から栗山高校への進学が 3 割程度なので選ばれる高校になるよう頑張っているところ。

環境政策課長 地球温暖化、環境が悪化することで社会情勢も変化している自然環境だけでなく、環境問題、農林業、道路河川、環境が難しくなっているということが世界的に叫ばれている。今の現状を次世代へ繋いでいくために町も事業者も町民の皆さんも取り組んでいくためにネイチャーポジティブ宣言をした。皆さんから栗山町でどのような取り組みをすればよいかということのご意見を聞きながら環境基本計画を策定し、後に環境条例を制定していきたいと考えている。

■栗山高校女子野球部の寮について

- 町 民 人口が減少し、栗山中学校の生徒も少なくなっていく中で、建物を建てる（投資する）ことに対する効果は。なんとなく赤字の介護福祉学校を思い出してしまう。何年か先の展望は持っているのか。
- 町 長 このことについては議会とも議論してきた。これからは人口減少や潤沢に野球部員を確保することも難しくなる中で、将来の展望も含めどのような建物が良いかということ踏まえ、国の補助金や、寄付なども募りながら、最小限の負担にとどまるよう工夫してきた。新しい寮ではなく下宿してもらうことも意見をいただいていたが、一つのチームとしての環境や集団生活を守ること、町外から大事な子ども3年間責任をもって預かることから新しく寮を建てることとした。
- 教 育 長 立地条件から言っても高校が無くなればさらに人口が減っていく。そういったことが各地で起こっており住民は住みやすい地域を求めて町外へ転出していく。町の予算を1千数百万使っているが、仮に高校がなくなって人口減を防ごうとしても1千万円どころでない予算が必要となる。子どもたちが地方から来た場合、残ってくれる可能性もある。地域未来留学の取り組みなど関係人口にも期待できる実践例もある。町の政策とリンクさせていくなかで高校問題も考えていかなくてはならない。介護福祉学校については人材の面で町内の特別養護老人ホームや老人保健施設などの安定した経営を支えている部分もあると考えている。

■くりふとの民営化について

- 町 民 くりふとがオープンして1年半経った。将来的に民営化すると聞いていたがどうなるのか。
- 町 長 現在は直営の方式を採用しているが、町としてもいろいろな事業展開をし、集客力を高めるノウハウを蓄積しているところ。もうしばらくして指定管理方式、その先に建物を含め民営化させることを目標にしている。

■南部地区の医療機関について

- 町 民 10月24日に発生した、つぎたてクリニックの火災は想像もしないような火事だった。昨年、南部地区では歯科もなくなった。南部地区の医療は、栗山赤十字病院が建て替えされるから良しとするのか。南部地区の事を考えて骨を折ってもらえないか。
- 町 長 先生が再開の意思を持っているかが重要。南部地区で開院するのであれば、町としても応援したいと考えている。仮にやめるということになった場合でも、栗山赤十字病院の新病院が開院したからと言って町内全ての医療を確保できるとは思っていないので、そのような事態になれば誘致活動は必要だと考えている。いまは、先生の意思が固まるのを待ちたいと考えている。

■流れの沢川の護岸の倒壊について

- 町 民 大雨で流れの沢川が氾濫し崩れた。測量してくれるのは早かったが、今後どうなるのか。4月までに何とかなるのか。
- 町 長 大雨による細かい修繕はすぐ対応できたが、流れの沢川は国の災害査定を受ける必要があり国のスケジュールに左右されてしまう。
- 副 町 長 国の査定スケジュールによっては年をまたぐ場合もあるが、確認出来次第お知らせしたい。

■ラジオの電波について

- 町 民 電波対策としてラジオのＴ型アンテナが用意されているが、ひと手間、ふた手間かかり、それでも電波状況は悪い。電波の出力を上げたり、中継局を作ったりできないのか。防災の意味合いの強いラジオなので、電波が良いのは市街地だけという訳にはいかないのではないかと。
- 町 長 中継局を建てる計画で北海道総合通信局へ申請をあげていたが、他の電波と混線してしまいさらに悪化することが想定されたため許可が下りなかったという経過がある。全額公費負担によりＴ型アンテナなどで電波の対策をとることになったのはそのようなやむを得ない事情がある。ご理解をいただきたい。

■栗肥土の今後について

- 町 民 生ごみの分別が変更されたが栗肥土はどうなるのか。
- 環境政策課長 ごみの分別を変更したことにより桜山の処分場に生ごみを搬入しておらず既に栗肥土の生産はしていない。生ごみの削減方針は変わりなく協力をお願いしたい。